

北海道大学北13条門交差点改修デザインコンペ

= 審査講評 =

北海道大学北13条門交差点改修デザインコンペには、18件の応募登録があり、12点の作品応募がありました。

3月3日に審査会を開き、厳正に審査した結果、最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作1点を選定しました。

今回の北13条門交差点改修に伴い、交通の安全性を確保した上で北海道大学の“顔”として印象づけられる空間づくり並びに13条門の奥に広がる景観的・環境的特徴を活かした整備をテーマに応募された作品はどれもレベルが高くテーマに沿った作品でした。

審査の概要ですが、一次審査では安全性、機能性、コスト面、デザイン、既存樹木の取り扱いなどを中心に審査を行い、5案に絞り込みました。

最終審査は、評価項目として ①人・自転車・車両との分離、②インフォメーション機能の追加、③安全性、④雪による影響、⑤維持管理、⑥デザインの6項目を抽出して審査しました。

選ばれた3作品は、どれも歩行者と自転車の分離が提案されていて安全面での配慮がなされていました。また、13条門の奥に広がる景観的・環境的特徴を活かし、門柱がないにもかかわらずキャンパスへの誘導性を高めていました。

北側のケヤキについてはシンボルツリーと位置づけその周辺に人が集まり何か起きそうな期待が感じさせました。さらに、最優秀賞、優秀賞の2作品は、積雪期間を含む施設の維持管理に配慮がなされていました。

最優秀賞の作品は、現状の門柱で使用されている青鉄平石を再利用したベンチの提案があり、時代の流れを感じつつ、開かれたキャンパスへの息吹を感じさせてくれることを高く評価しました。

以上、今回のデザインコンペの実施は北海道大学にとっても、とても有意義なものとなり、今後は実現に向けて次のステップに進んで行くことし、講評の言葉とさせていただきます。